

たより from おんがた

発行人

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
 恩方育成園 施設長 久保田 美幸
 〒192-0154 八王子市下恩方町 2794-1
 Tel 042(652)3825 Fax 042(652)3826



「願いを実現する」施設(地域生活支援型入所施設)づくりの取組み

当園も蝉から鈴虫へと虫の鳴き声に移り変わり、さわやかな風が山間をかけ抜けて、秋の過ごしやすい日々も紅葉と共に冬の到来を感させる季節なり、四季折々の豊かな自然に心があらわれてきますと言いたいところではありますが、第3波の急速な感染拡大に、感染症予防対策を「徹底」そして「日常化」へと取り組む毎日となっています。

現在も新型コロナウイルス感染症の最前線において、病と向き合っている医療従事者と感染予防対策のため利用者の安心と安全に日夜奔走する同朋の福祉従事者に、「幸多かれ」と感謝のエールを贈り、終息を願っています。

当園は、20余年前に、グループホームなど地域生活支援が脆弱であった中で、「親亡き後の子供の棲家を東京都内に」との親の会の皆様の願いが実現し建設され現在に至っています。

前回にもご紹介しました春山廣輝氏の「彼らの願いを原点に～もう施設はいらない～」の中で、「彼ら(当事者)が一番望むことは、それは何と言っても地域の中で生きたいということです。施設の中でいつまでも生き続け、施設の中で自分の生涯を終わるのではなく、地域の中で生きたいという思いが強いことを、私は知らされたという気がいたします。」とあります。

20年の歳月の中で、地域生活支援も充実してきている中で、「親亡き後」の課題は現在も大きな心配事となっています。その「親亡き後」を時代錯誤(死語)にするために、当園の中長期計画の「願いを実現する」施設(地域生活支援型入所施設)づくりの取組みがあります。

今年度はこれまでに、コロナ禍ではありますが、「願いを実現する」施設(地域生活支援型入所施設)づくりの取組みを始め、当園から2名の利用者が巣立ち(地域移行)地域生活を始め、1名のリハビリ支援を実施しました。

お一人目は、現状の地域の中でも多く見られている、所謂

「8050問題」に直面した中で、当園でミドルスティを利用することになったケースです。主な介護者が疾病に伴い入院となったが、退院後に利用者との生活が困難となり「今後の生活をどうしていくか」という課題解決に迫られる中、短期入所先から入所され、利用者本人には事実を伝えられておらず、「何時になったら家に帰ることができるか」と本人の願いとは異なり我慢の日々が…。自らの人生を歩んでいく上で、事実を知ることの大切さを説明しましたが、「本人に言ってもわからないから」との家族の言葉に「障害があるからわからないということはありません」との対話で、家族から事実を話すことになり、利用者本人と「これからの新たな人生の一步を共に踏み出しましょう」と約束を交わし、地域生活支援の実践が始まり、地域の中で自分らしい新たな人生を始めるために、当園から巣立って行かれました。

お二人目は、長年当園に入所されていたケースです。入所以前は、他のグループホームで暮らしていましたが、様々な事情から当園に入所され、利用者本人は「早くここから出たい」という願いがありました。実現には至っていませんでした。その思いに寄り添い向き合うことから始まり、「新たな人生の第一歩を、自分らしい暮らしを共に踏み出しましょう」と地域生活支援の実践が始まり、グループホームと日中活動の見学、体験を繰り返し、自らの「願いを実現」して地域へと巣立ち、現在、当園の定着支援を受けながら充実した地域生活を過ごされています。

親の子どもへの思いは何歳になっても「子は子」であることも踏まえ、ご家族が安心し、障害がある彼ら彼女らすべての人たちが、地域の中で当たり前暮らしを創造していくことが、私たちの使命であるとして、これからも「願いを実現する」施設づくりに取り組んでいきます。

施設長 久保田 美幸

6月

新しい生活様式

はやて・つばさ



新型コロナの影響で、行事やイベントなどを縮小や中止せざるを得ない中、利用者の方々に少しでも楽しんでいただくと、フロアではホットケーキパーティーや、新人職員歓迎会など行ってきました。また、今年も酷暑となり外を散歩する事もままならず、利用者の方々にとって我慢の日々が続いていましたが、幸いにも皆さま元気に過ごしております。これから少しずつ季節が変わり体調を崩し易い季節になっていきます。この状況が好転し、また以前のように外出できるようになる日に向け、引き続きしっかりと体調管理をしていきたいと思っております。



7月

おやつ作り

こまち



こまち班では、マスクの着用が難しい方が多く、外出に出にくい為、フロアでのおやつ作りに力を入れみんなで楽しみました。容器にもこだわり、アイスクリーム屋さんがのアイスの様なカラフルな絵が描かれた器で食べ、みんなの表情がとても明るく、コロナ禍という事を忘れるぐらい楽しみました。

8月

食事会

ひかり

ひかり班では、マスク着用・手指消毒をそれぞれが徹底しながら、少人数での個別外出ということで、買い物やオープンテラスでのランチへ出かけることもありました。

一方では、『外に出られないなら園内で楽しもう!』と考え、普段からリクエストが多い調理実習の機会を増やしました。

メニュー決め、材料の買い出し、何をやるか、誰がやるか、飾りつけを手作りする、ランチョンマットに絵を描く、そして思いっきり食べて楽しむ♪といったように、自分たちで作りあげる行事を行うことで、充実感・満足感を得たようです。



9月

魚釣り大会

のぞみ・やまびこ



のぞみ・やまびこ班は、コロナでなかなか外に出られない状態ですが、フロアではボウリング大会（テレビゲームのボウリングで優勝者を決めたり）、魚釣り（職員が紙などで作った魚を釣ったり）、カップケーキ作り（利用者同士で協力し作った）などのイベントをしました。他にも、少人数でオープンテラスに行き食事をとったり、お店に行ってテイクアウトをして、園に戻り食事をするなどして食事も楽しみ利用者さんの笑顔が増えました。



ICT機能

ICTとは、Information and Communication Technology(情報通信技術)。
通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。ICTを活用したシステムやサービスが普及することで、社会インフラとして新たなイノベーションを生むことが期待されています。人材不足である福祉業界には、ICTを導入することで、利用者さんに対して、これまで以上に目が行き届く状況を作り出し、職員にとっては事務作業の効率化の効果があります。



恩方育成園 2020年ICT導入機器紹介

【眠りスキャン】

24時間パソコンのモニターで睡眠・覚醒・起き上がりなどが把握することができ、呼吸数や心拍数がリアルタイムで知ることができます。



【人感センサー】

24時間365日、利用者の生活リズムを乱すことなく見守りができるため緊急時だけでなく、普段の見守りも可能で異変の早期発見に対応ができます。



【ipad(タブレット)】

利用者さんの側でも記録を記入することができ、音声入力も備わっていて大幅な時間短縮に繋がり、利用者さんから目を離す時間が減り利用者さんの側に居られる時間が増えます。



恩方育成園ではスタッフ及び
ボランティアを募集しています！
お気軽にお問い合わせください♪

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
障害者支援施設 恩方育成園

〒192-0154 東京都八王子市下恩方町 2794-1
TEL 042-652-3825 FAX 042-652-3826
URL <http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-ongata/>

採用担当：根岸、本田、田代
ボランティア担当：門倉志保

編集後記

今年もあと1ヶ月をきり振り返ってみると新型コロナウイルスに振り回された一年でした。施設一丸となって感染対策に専念した事、また保護者様を始め、各関係者様のご協力があって、幸いにもこれまで一名の罹患者も出しておりません。一日も早くこの状況が良くなり、利用者の方々と楽しく外出した様子をこの広報誌でまたお伝えできればと思っております。 広報委員会 佐藤